



## 現在から未来へ



新年あけましておめでとございます。  
 本年度後期は、Net dayや様々な講演会等  
 いろいろと、忙しい時期でした。  
 年もあけ、2年生は後わずかな学校生活を卒業研究  
 だけで終わらせないよう頑張りましょう！

### 南向きの大きな窓

## 宿題

学校長 榎原 英勝

「宿題を出すぞ」  
 「宿題はやって来たか」・・・宿題という言葉を聞いて、嬉しくてウキウキして来るとか、俄然やる気が出てくるとか、どうもそうした類の話は嘗て無く、一様に憂鬱な気分となり、顔をしかめ文句たらたらというのが一般的な様だ。  
 勿論当方もこの言葉には、圧倒的に苦い思い出ばかりである。中でも未だにかすかな記憶にあるのが、今から三十年も四十年も前のことであって、確か小学校も高学年であったと思うが、その何時かの夏休みだった。遊び惚けてほとんど手つかずの課題帳を、今日から登校というその朝、父親が突然見せるといってページをめくると、当然ながら白紙同然のページが次々と出てくる。父親に首根っこを押さえられて、ここで全部やっつけてという。父親の監視の元に泣きじやくりながら課題帳をくしゃくしゃにした記憶がある。  
 勿論そんな短時間で宿題の全てが終わるはずもなく、どこで父親が許してくれたのか、また、学校の始業に間に合ったのか、今では記憶も定かでないが、何よりも不思議なのは、後にも先にも父親が宿題のことで激怒したのはあの時だけだったことだ。どのような意図で、またなぜあの時に限ったことだったのか、確かめたことも無いので何とも言えないが、その後長ずるに連れてすっかり忘れてしまった痛みではあるが、少なくとも中学

生頃までは身にしみていたから、父親のあのやり方は効果があったというものであろう。  
 翻って、「専門学校では宿題は無いのか」「予習や復習をしないでついでにいけるのだろうか」と、ご父兄から問われることがある。  
 この学校は、宿題を課さない方針であるとか、家庭での学習には重点を置いていないなどという訳でなく、現実、レポート提出等は頻繁に求められる教科も多い。  
 従って、予習も復習も必要だし、宿題や課題も沢山あるのだが、それをやるもやらないも学生本人の自主性に任されていると説明している。必要を感じるか不要と判断するか、要は学生が自主的に学ぶ姿勢を基本としている。きたいことを理解いただいている。  
 専門学校は、単なる知識や教養のみでなく、体で覚えさせる必要資格を得ること、即ち、実社会で役立つ技術を身に付けることが目標の学校である。それには一人ひとりが如何に必要と感じてそのための努力をするかに掛かっている。  
 その意味でこの学校の宿題は、自らが己に課すもので、実はこの宿題が最も辛い宿題だ。  
 現実、一端社会に出れば毎日新たな宿題を自己に課し、それに如何に取り組むかの連続である。指示を待って与えられた仕事を無難にこなして、一年経てば自然に地位も待遇も上がっていくという懐かしい時代は、とうの昔に終わったことを認識する必要があるだろう。

# アメリカのNetday

## 飯田のNetday

### 「二度のNETDAYを 通じて」

二年 椎名 善之

四月の終わり頃、飯田市の海外実務研修という事で、アメリカのNETDAYというイベントに参加してきました。他に、日本からSVJ(スマートバレージャパン)の方々、計九人の参加という事でした。海外へ行く、しかも旅行ではなく研修という事で、非常に緊張していました。

NETDAYとは、シリコンバレー地域の情報通信能力が他の地域と比べ遅れていたために、産・官・学・民が一体となりシリコンバレー地域の全ての学校を九七年までにすべて接続してしまおうという計画です。今回私が参加したのが最後のNETDAYで、今回を含めて、シリコンバレー、サンフランシスコの五百校が全てインターネットに接続された事になります。参加すると言っても、やはり審査が必要で、運営能力の乏しい学校などは除外されています。



場所はサンフランシスコから南へ約一時間半のサンノゼにある「スレーター・エレメンタリー・スクール」という、日本と言う、幼稚園から小学校までの教育を行う学校です。学校は生徒数五百人程の規模で、その割には校舎が平屋建てで、土地の広さの違いに少し驚きました。スクールに到着すると、すでにボランティアの方や先生などが集まっており、朝食も用意されています。時間が来ると、校長先生の挨拶や、仕事の内容、グループ分け等の説明がされ、各教室二人づつのグループに分かれ、作業を始めました。各教室に置かれているコンピュータのメモリ、OS等のチェックを行いメモリの増設やイーサネットカードの取り付け、また各コンピュータのIPアドレス設定などが主な仕事です。Windowsマシンだらうから、設定はすぐ終わるかな。と思っていたのですが、実際はすべてのコンピュータがマッキントッシュで、学校でもほとんど触った事が無く、メモリやOSのチェックはいいものの、アドレスの設定などはまったく分かりませんでした。しかも配布されたマニュアルは、当たり前ですが、すべて英語で内容すら分かりません。しかしそこは素人でも分かるようにという配慮がきちんとされており、

画面をプリントアウトした絵も印刷されていて、目で見て分かるように作成してありました。また、各教室の配置の図面も、日付を見ると半年前の物であったり事前準備を綿密に行っているのが分かりました。聞く所によると、図面一枚作成するだけでも、専門業者が作成しており、費用も日本円に換算すると数十万円するという事、それをボランティアで作成する等ということで、教育のために産・官・学・民が一体となりNETDAYを進めようとする姿がありました。私たちが作業をしていると、コンピュータのクリーナーを持ってPCをきれいにしていく作業をする親子が来ました。きっとその学校の生徒と親なのでしょう。技術的に参加できない人はこういった作業をする事で協力しているのです。作業が進んだ所で一つハプニングがありました。各教室からのケーブルを一個所にまとめる「ハブ」という装置がまだ設置されていないのです。本来ならば、その日までに設置されているはずなのですが、工事の遅れ等で未設置だという事でした。二週間以内には設置されるとの事でしたが、こう

いう事はよくある事だそうです。一連の作業は午前中で終わり、すべての教室の作業が終わると、全員が教室に集まって、インターネットに接続された事のデモンストレーションが行われました。ブラウザで色々なホームページが表示されると、集まった人から歓声が上がっていました。デモンストレーションが終わると、参加した人たちのために昼食が用意されており、作業が無事終了したことをお互い喜び合っていました。NETDAYを終了しました。しかし、これで全て終わったわけではなく、この後の管理費、維持費等は全て学校負担となります。回線使用料は日本と比べ、非常に安いのですが、他にかかる費用などもバザー等をして費用を集めるという事を校長先生が話しておられました。また、インターネットやコンピュータ関連の教室も開かれ、まず先生が何週間か研修を受け、それから学校で生徒に教えるという形です。ある程度は教えなくてはいけない最低のラインは決まっているのですが、それ以上は先生の自由で、ネットサーフィンをしたい先生、ホームページを作りたい先生等、生徒もそれを教えてくれる先生の所へ行き自由に授業が受けられる仕組みになっています。また、インターネットをする上では様々な問題が発生します。学校でその様な事が起こった場合、学校では責任を取らないが良いか。といった旨の誓約書も保護者に書いて

もらうと言っていました。さて、NETDAY飯田はどうだったかと言うと、今回のNETDAY報告を受けた方が「飯田でもそのような事は出来ないだろうか」という事で発足したのがきっかけでした。シリコンバレーと同じように飯田下伊那地方は伊那谷と呼ばれる地域であり、また他の地域と比べて情報が来にくいという事もあるのでしょうか。そこで「情報を上手に活用できるような人を育成するために」といったような形でNETDAY飯田が発足しました。私も現在の小学校何校か、パソコン教室の設置の手伝いをさせてもらった事もあったのですが、学内でネットワークを組んでいるだけで、外に向けた準備がされていない事を少し疑問に持っていました。確かにこれは良い機会だと思いつたNETDAY飯田の方も何らかの形で手伝わせたいたく事にしたのです。飯田の場合、小・中・高各一校が重点校という事で、追手町小、緑中、飯田女子高が選ばれ、接続される事になりました。事前準備の段階で、アメリカの場合と違い、各学校がすでに校内で独自のネットワークを形成していたり、希望台数分の接続が出来るかどうかの打ち合わせもされました。また当日までにはISDN回線を引いても



らせる事が決まり、快適な環境でインターネットに接続する事が出来るようになりました。NETDAY飯田の当日ではホームページコンテストなどが催され、全国からノミネートされた学校のホームページが紹介されました。始どのホームページはパソコンクラブのメンバーが主になって作成しているものでこれを機に多くの生徒がコンピュータに触れる機会が増えれば良いなと思います。

NETDAYのようなイベントを通してパソコンから様々な情報に触れる機会が増え、親しみを持つ事ができてから、何年もしてそれが生かせる機会が出来るのだと思います。昔は日進月歩などと言ったものですが、今では分、秒単位で物事が変わりつつあります。全ての情報を身につけるといふ事はとても出来る事ではありませんが、必要な情報が必要な時に必要なだけ引き出す事が出来るというのが、後々必要になってくる事だと思っています。そういった事を普段からもしていくようにするのがNETDAYの目標でもあるのではないかと、そう感じています。

昨年十月七日の飯田コンピュータ専門学校内で、田中利樹さんと宮脇学さんの講演が開かれました。身障者の方々にとってパソコンを使用しての文章入力に楽しさを感じさせることなく交流を深めることが出来る電子メールやインターネットはとても便利だと言ふ事など、熱心に語って下さいました。私達とは違った視点からの意見、感想はどれも考えさせられる事が多く、どの学生もお二方のお話に熱心に耳を傾けていました。

## Netdayで行われたホームページコンテスト 参加校

- 長野県篠ノ井西中学校
  - 神奈川県金沢中学校
  - 岐阜県河合中学校
  - 愛媛県二名津中学校
  - 宮崎県宮崎西中学校
  - 宮城県太白小学校
  - 鹿児島県高千穂小学校
  - 滋賀県マキノ北小学校
  - 静岡県星美小学校
  - 東京都芝浦工大中学校
  - 熊本県湯島小中学校
  - 宮城県飯野川第一小学校
- とてもすばらしい作品の数々でした。

## 身障者の気持ち

### パソコンの可能性

#### 二年 男子

お二人の講演を聞かせて頂きました。熱心に語って下さいました。世の中にパソコンが普及し、それに出会って実際に扱うようになってから、とても身近で欠かせないものになったとおっしゃってました。

田中さんは、インターネットで自分のホームページを設けて自己紹介などのコーナーを開いています。メール交換でも他の人と何ら変わらず応答出来る数多くの人と交流を深める事が出来るとても楽しいとおっしゃっています。

宮脇さんは、以前はタイプライターを使用して文字を打ってましたが、ワープロを使用してからとても楽に文章を打てる様になったとおっしゃっています。

お二人ともパソコンを使用してからとても便利で身近なものになっていとおっしゃっています。僕達が日頃触れているパソコンがとても役に立っていると感じられて、何かとても嬉しかったです。体にハンディを背負っている人との壁を無くせるパソコン。新しい可能性をこれからも広くなるように、少しでも応援して協力の手を差し伸べてく事がとても大切な事ではないかと思えます。



平成9年度就職内定状況

今年度の就職内定率は、(男子内定11名) 55.0% (女子内定3名) 100% 全体60.9%未定者9名という状況です。

内定者のほとんどは地元企業への就職となっております。地元の希望はありますが、内定者がほとんどいない状況です。地元内定者のうち半数は事務的な職種で残りの半分は製造業関連やその他です。昨年に比べて、人数の関係もあり全体的にみて少し低めの内定率です。

求人の方では、地元企業が圧倒的に多く来ており県外からの求人は、例年と比べ多い方ですが、地元企業と比べるとやはり少ないです。地元企業の求人内容は、事務的なものと製造業関連がダントツで多いです。また、少いですがマルチメディア関連も見られました。

県外からの求人では、主に東京あたりからの求人が多く職種もマルチメディアやデザイン関連、システム開発等の仕事も多く見られました。

年が明け求人募集の数もかなり減ってきましたが、まだ地元企業で求人募集を行っているところが数社見られます。まだ決まってない9名の就職未定者は頑張らしましょう!

# 委員会引継について

もう一月になりました。二年生は卒業研究の追い込みで大変忙しい時期ですが来年度の委員会のために引継を行って下さい。毎年、引継が行われない委員会が数多くあります。それにより、いきなり仕事を押しつけられても何をしたらいのかわからない委員が毎年出ています。そのようなことのないように二年生の委員長をはじめ委員のみならず、必ず引き継ぎの委員会を開いて下さい。二年生の各委員長は正確な日と時間を決めて一年生や二年生の委員を全員あつめて二月の終わりまでには、少なくとも一回は委員会を開いて下さい。委員長で、新委員のメンバーがわからない人は担当の先生に聞くか、一年生の担任(下平達郎先生)に聞いて下さい。引継に関して分からない事が多い人は、自治会のフォルダーに各委員会の過去の記録が載っています。そこに、委員会引継に関しての事も書いてあるのでそれを参考にして引継を行って下さい。自治会のIDとパスワードが分からない又は忘れてしまった人は自治会長(柴田安雄)に聞くか担当の先生に聞いて下さい。

## 〔一年生へ〕

あと少しで二年生は、学校へ来なくなります。新委員会がほぼ決まっているので一年生は自分の委員会の引継に必ず出て下さい。もし、委員会引継の連絡がこない場合は担当の先生か、担任の先生に聞いて下さい。二年生が学校に来なくなると委員会の引継をする機会がなくなってしまうので、自分の委員会の委員長がいるうちに必ず連絡をとって下さい。それと今年度の学園祭と卒業パーティーは新委員会が中心に活動する事になるので新自治会長並びに予算を扱う会計委員会等はこちらが一番大事なので特にしっかりと働いて下さい。少しでも分からないことがあれば、二年生の委員に遠慮なく質問して下さい。去年は、引継がままならず学園祭や卒業パーティー等で不備が生じ、期間ぎりぎりになって大変苦労しました。今年はそのようなことがないように、事前にやることはやっておき、学園祭の前日には全て整っているようにして下さい。

# 各種合格者

## 第八十七回簿記検定

3 級	橋爪 亜由未	4 級	長谷部 直美 古川 裕紀
3 級	木下 尊晴 代田 聡 古川 裕紀 高木 恵美 長谷部 直美 田中 優理 竹村 貴宏 竹村 秀幸 中島 美貴子 井上 誠	3 級	鈴木 清史 三浦 善文
3 級	井上 誠	3 級	佐々木 克仁

## 第二十六回ワープロ検定

## マルチメディア検定

## CG検定

## 編集後記

今回で私が制作するUP-LE Eは最後になる。最後なので一生懸命にやりました。しかし、卒業研究やインスタトラクター実習などあまり時間がとれず、結局たいした物ができません。今回で私が制作するUP-LE Eは最後になる。最後なので一生懸命にやりました。しかし、卒業研究やインスタトラクター実習などあまり時間がとれず、結局たいした物ができません。

# スケジュール

- 12/24 冬休み
- 1/5 年始式
- 1/15 成人の日
- 1/31 一般入試
- 2/6 学園祭
- 2/7 卒業研究一般公開
- 2/8 簿記検定
- 2/8 秘書検定
- 2/11 建国記念日
- 2/14 ワープロ検定(3、4級)
- 2/17~20 卒業試験
- 2/28 一般入試
- 3/2~5 後定期定期試験(1年)
- 3/6 卒業式

した。今回はほとんどNet dayの記事で埋まっています。一年生の記事は入れませんでした。と、言うより依頼しませんでした。それは、全てに出来ることですが記事を依頼しても指定した日までにそろわないからです。この学校の中で、自分から記事を書きたいと申し出る人は、まずいでしょうか。そんななか、我々は何とかお願いして書いていただいているわけですが、たいしての人は断ってきません。私たちは、適当に人を選んで書いてもらいたいと思いに記事を書いてもらいたいと思いに頼んでいるわけですが今となってはそこまでしてUP-LEを作る必要があるのか、疑問に思っています。結局、私達広報出版委員がここまでUP-LEを墮落させてしまったのでしょうか？もっと、周りの人も協力してくれば少なくとも「実」のある内容になったでしょう。いままら、終わったことを悔いてもしょうがないですが・・・今回記事を書いて下さった方には大変感謝しています。次号からは新しい委員会に引き継がれて新しいUP-LEができるわけですが、きっと今回よりはまともなものになるでしょう、そう私は信じています。